

令和5年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和5年5月23日（火）10時～12時

2 会場

県立阿賀黎明高校 多目的ホール



3 参加者

委員7人（欠席者なし）

県教育委員会1人

（オブザーバー参加）

- 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者7人
- 阿賀黎明探究パートナーズ関係者3人
- 阿賀黎明高等学校教職員3人

計21人

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 校長挨拶（伊藤校長）

- 昨年度同様6名の方に依頼し、新たに2名の方に委員になっていただいた。
- 昨年まで会長を務めていただいた清野一男様が勇退されて阿賀町社会教育委員・阿賀黎明探究パートナーズ副会長の清田周様、阿賀津川中学校長稲生校長先生が異動され後任の国本力校長先生に新たに委員に加わっていただいた。
- 学校運営協議会が設置され今年度4年目となる。
- 令和3年度からCOREネットハイスクール事業「新潟S a G a S uプロジェクト」が開始、昨年度各校へのオンライン調査があった。
- 本校のコミュニティ・スクールは、運営方針を協議する学校運営協議会と実働を支援する町の有志で構成する阿賀黎明探究パートナーズの体制は全国的に見ても一歩進んだ取り組みであると評価を受けた。みなさまからの支援の賜物であり感謝申し上げます。
- ただ、まだ途中経過の段階であり、今後とも忌憚のないご意見、ご助言をいただきたい。

(2) 会長、副会長選出

事務局から推薦。遠藤佐様を会長に、猪俣一成様を副会長に選出した。

(3) 会長挨拶（遠藤会長）

- 学校運営協議会を軸とした高校の魅力化に尽力していきたい。
- 進路実現をしっかりとケアできるかが前提となる。そこから先に学びの方法、内容を私どもがバックアップしていく。

- 皆様と一緒に学校運営協議会や熟議をとおして考えを深めていきたい。

(4) 本校の状況説明（伊藤校長）

- 新入生17名、全校生徒は4名減の46名でスタート。
- 46名の半数以上は阿賀津川中学校の生徒。
- 阿賀町の支援で県外生の募集が開始され、今年度県外生が初めて3学年揃った。阿賀町に整備していただいた学生寮で県外生15名、阿賀町以外の県内生3名が生活している。
- 教員の定員は学級数に応じて決められており、平成3年度から募集学級減により1学級募集となったことで教員数が少しずつ減っている。
- 中教審の答申に基づき、スクールミッション及びポリシーを定めることになっている。スクールミッションは高校に期待される社会的役割、存在意義を明確にして地域住民に提示する。この3月に県教育委員会から公表された。
- 今年度はこのスクールミッションに基づき教育活動の指針となる3つのポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を学校、生徒、保護者、地域等と話をしながら作っていききたい。来年の3月に県教育委員会から公表される予定になっている。
- 阿賀町から支援していただき地域連携活動を推進する中で令和2年度に学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールを開始した。阿賀黎明探究パートナーズを組織し、地域コーディネーターが学校、行政、地域間の調整を行い、連携を円滑に進めることで地域協働体制が確立した。今後は活動の中身をどう充実させていくかが課題である。
- 課題
 - ア 地域と連携して行っているプロジェクト学習などの探究活動を教科横断的学習として各教科とどう結びついていくのかが課題。教科ではこういうアプローチができるかと提示してほしいと教員に伝えている。さまざまなアプローチを増やすことで多様な個性を伸ばすことができる。
 - イ 支援してくださる地域の皆さんと教員の交流をよりいっそう深めることも活動を充実させるために必要。新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきており、昨年度の文化祭から地域との連携した取り組みが始まっている。今年も体育祭や文化祭にて地域と連携した企画に取り組んでいきたい。
 - ウ 阿賀津川中学校とは連携型中高一貫教育の協定を結んでいる。今年度、黎明学舎の加藤コーディネーターを中心に中学校と連携した活動を進めている。阿賀町が推奨している阿賀町15年教育にも繋がっていくことを期待している。
 - エ 小規模校における授業の質・専門性の確保のため遠隔授業を推進している。また、遠隔授業の設備を活用した他校との交流では、去年は佐渡だけでなく広島の高校とも交流を行った。小規模校だからこそ、交流の幅を広げていけたら良いと思っている。
 - オ 志願者の確保について、近年特色化選抜でボートの志願者がいない。県内中学生のボート人口が少ない。隣県のボート部のある中学校へもアピールもしていき

たい。

- 皆さんの御支援をいただき地域と連携した教育活動を推進し、生徒の成長に資するものとしていきたい。

(5) 令和5年度の取り組み

ア 令和5年度の地域と連携した教育活動予定について（加藤コーディネーター）

- 阿賀町さいこうプロジェクトでは、1年次に探究学習の基礎的スキルを習得したり阿賀町の課題・資源を学んだりし、2年次に生徒が個々人で企画したプロジェクトを実行する。
- 地域学では、2年次に阿賀黎明探究パートナーズと連携した2つのプロジェクト活動を実施、3年次にふるさとCM大賞に応募する動画を作成する。
- 阿賀津川中学校との中高連携は今年度3回実施予定。高校2年生が企画したプロジェクトに中学1年生が参加する。
- 阿賀黎明探究パートナーズとの連携として、体育祭及び黎明祭における「阿賀黎明おもっしえぞマルシェ」を実施する。

イ 令和5年度地域みらい留学入学生募集に向けた活動について（西田地域学校協働推進委員）

- 地域みらい留学は、県外進学を考える方に向けたプラットフォームである。
- 今年度は東京、愛知で説明会を行う。
- オンライン合同説明会に3回、東京での60校ほどが参加する2日間の対面合同学校説明会現地説明会に愛知で1回、東京で2回参加する。現地体験会は5日程実施予定である、他にオンライン学び体験会を1回実施する。
- 10月中旬から11月中旬にかけて入寮希望調査を出していただき、面接後入寮許可を出す。

ウ 「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」について（県教育委員会）

- 文部科学省のCOREハイスクール構想により、令和3年度から令和5年度まで3年間取り組む。
- ネットワークを構成する、佐渡、阿賀、翠江の頭文字を繋いでS a G a S uとなる。
- あり方を探す、地域人材の育成のために地域の未来を探す。
- 今年度新たに取り組んでいる教科は古典B、書道I、地学基礎、論理・表現II、社会福祉基礎、情報Iである。（阿賀黎明高校への配信は地理B、化学基礎、地学基礎、書道I）
- 高校の小規模化が進行している佐渡市内の高校5校、阿賀黎明高校、新潟翠江高校、学校地域が連携協働した取り組みを進めている。
- 現在12,548人、今後15年度には6,000人中卒者数が減少する。成果と検証が重要となる。
- 羽茂と阿賀で同じ時間帯に授業をしている。1年生では芸術の選択科目で書道を入れた。配信授業によって授業を行なっている
- 新潟が目まわっている取り組みとして、事務職員が受信側補助、理科の実習助

手の方に受信補助に当たっていただいていることがあげられる。

- 学校と地域との連携した取り組みについては、それぞれ阿賀黎明高校魅力化プロジェクト、佐渡教育コンソーシアムと連携しているところ。
- 学校間連携・生徒間交流について、昨年度は探究の合同発表会を2回実施。タブレットを使い、質疑応答を行なった。ネットワーク校の2年生300名が繋がり、40グループ8～9名、自分の取り組みを他校の生徒に発表する。探究の発表を聞くことが主になるが、他の高校へ取り組みを発表する場になった。
- 今年度は、プロジェクト最終年度。県独自の事業として、遠隔教育推進授業を令和5年度より開始。ICTを活用した学校連携には継続して取り組んでいく。令和5年11月は教育月間にあたる。3年間の取り組みの成果を発表するシンポジウムを行う予定。地域と連携した取り組みの11月14日火曜日に朱鷺メッセを借りて会を開こうと思っている。御協力いただきたい。

(6) 質疑応答

(遠藤会長)

総合的な探究の時間で特に1年生だと思うが、阿賀町の子供が半数だし、町外の子供も半数で構成されている。阿賀町のことを3年間で通して学んでいくことに対して、阿賀町の入門、歴史・自然環境について高校の授業で1コマぐらいやれているのか。

(加藤コーディネーター)

あがまちゼミにおいて、まちづくり・福祉、観光・商業、自然・農林業の3分野で地域の方に話を聞いて阿賀町を知る機会を設けている。

2学期後半～3学期に行う授業のため、1年生の早い段階で阿賀町入門のような授業を入れた方がいいかもしれない。担当教員と相談する。

(遠藤会長)

具体的なテーマに行く前に、阿賀町の歴史をはじめとする基礎的な知識を入れておくのもいいと思う。

阿賀町に在住、出身の先生もいる。もしいないようであれば、教育委員会の職員も派遣を検討できるので、学校で検討いただきたい。

(猪俣副会長)

県外の生徒を受け入れて3年になり、町外から進学した生徒が卒業する状況になった。阿賀黎明高校の強みである地域との連携を3年生はどう感じているのか、また進路に対してどんな影響があったのか、所感でいいので聞かせていただきたい。

(西田地域学校協働推進委員)

地域と連携した授業がまだ整備されておらず、3年生が地域に目を向いてというのは部分的にはあったが、進路に直接つながる動きにはなっていない。2年生の生徒が嫁入り屋敷のイベントをやったり、社会福祉協議会のボランティアに参加したりしている生徒はいる。

(犬飼教諭)

進路に関して、現在寮に住んでいる生徒は5名いるが、県内に残る子はいない。

進学をすればしたら実家から通えるところに通いたい、自衛隊を希望しているなどが多い。就職を希望している生徒はいない。

進路については、県内に残る選択をしていない。中学と高校の違いとして。阿賀黎明という居場所で、阿賀町の良さを感じている。生徒会長をやっている生徒もおり、やれることをなんでもやろうという形で取り組んでいる。

町内の子が引っ張られている場面もあり、阿賀町の子に良い影響を与えている部分もある。町外の子と一緒に学ぶという意味があると感じている。

(猪俣副会長)

阿賀町に残ってくれることが成果とは思っていない。地域を共につくっていく人を輩出できればいいと思っている。

入学志願者の確保、地域との連携をやったことでよかったなと思ってくれる子が増えることで、志願者の増加につながる。生徒の満足度の増加につながればいい。それを発信することで次につながると思う。

(西田地域学校協働推進委員)

今の話が後半の熟議のテーマになっているので、後ほどゆっくり話せればと思う。

(清田委員)

S a G a S uプロジェクトについて、理科・地理歴史・公民・芸術で配信授業を行っている聞いたが、4教科とも配信のみか。現地での授業はあるか。

(南雲指導主事)

通年の遠隔授業の中で、阿賀黎明や佐渡島内に行って行う対面授業を2回行なった。遠隔授業を担当する教員のスケジュールもあるが、理科の化学基礎の実験・実習の取り組みを昨年度2回分の旅費だったものを大きくして、対面で授業をする機会を増やす予定である。

4月にオリエンテーションも兼ねて現地に行く形が多い。今年度も信頼関係を構築する目的で行っている例が見られる。

(清田委員)

芸術に関しては特に技術の部分もあるので、遠隔だけでは難しいと感じた。

最終年度ということで心配だったが、これから解消されていくと感じた。

(南雲指導主事)

書道の授業では、ICTを活用し、生徒が書いている様子を補助職員がiPadで写して教員に見せる、書画カメラで手元を写し生徒に見せる、等工夫している。

書道は今年度からの取り組みのため随時検証結果を共有していきたいと思う。

(7) 次回開催日時

9月下旬を予定。後日、調整する。近づいたら電子メールを送付。

(8) 閉会 副会長挨拶 (猪俣副会長)

○ 副会長として遠藤教育長をお支えする立場として、なんとか副会長を勤めていきたい。

○ この場で共有して方向性を統一することが大事。それぞれの考えを共有し、阿賀

- 黎明高校をよりよいものにしていければと思う。
- 今後も積極的なご参加をお願いしたい。